

情報工学科 2025年度 第1回 教育課程編成委員会議事録

日 時： 2025 年 10 月 20 日（月） 15 時 00 分～16 時 00 分

場 所： YIC 情報ビジネス専門学校 2階 応接室（Microsoft Teams ミーティング）

参加者： 米澤 豊 様 （株式会社ビーアライブ 代表取締役）
板倉 真紀 様 （株式会社グッドニュース 取締役副社長 CareerMap Labo 編集長）
長畑 勉 様 （一般社団法人山口県情報産業協会 会長）
小田 政江 （副校長）
杉林 伸繁 （特任部長）
三船 龍 （事務長補佐）
森野 茂弘 （教務課長）
柳川 小次郎 （情報工学科 学科長）
田中 梓 （情報工学科 教員）

議事

1. 開会挨拶と学科現状：(小田副校長)

情報工学科は YIC 情報ビジネス専門学校内で唯一の 3 年制学科である。大学が情報系学部を乱立する状況にあるが、本学科は実践教育の高いスキルを持つ教員と、学生の成長により、高校からの評判と学生の満足度が高い状況にある。

2. 教育課程カリキュラムについて (柳川学科長)

(1) カリキュラムの構成と目標

・ 構成：

3 年課程であり、2 年次に「開発 (Development/Dev)」もしくは「運用 (Operations/Ops)」を選択し、3 年次に「DevOps」として合流する。

・ ディプロマポリシー：

1. エンジニアとして正しい思考と行動ができる「エンジニアマインド」を習得する。
2. Dev 選択者は 3 つのプログラム言語、Ops 選択者は 3 つの運用技術を習得する。
3. 卒業後、新しい技術を独学する力を身につける。
4. 少なくとも 2 つの国家試験に合格し、卒業後も努力ができる。

・ 学習指導：

◦ 1 年次：

高校での情報教育の時間を踏まえ、プログラミング基礎をやり直す。また、専門学校に入ってくる学生の学力が低い傾向にあるため、ノートの取り方や復習の大切さなど、学習の仕方を共通科目として指導する。

◦ 進路指導：

入学直後 (授業開始前) から 1 年生を上級生の就職活動にゲスト参加させ、将来に対してポジティブな理由で Dev または Ops を選択させる。

・ エンジニア特化：

6 年ほど前の教育課程編成委員会での提言に基づき、エンジニアに不要とされる Word、Excel、一般的なビジネスマナー等の授業を削り、専門的な教育に特化している。その結果、2025 年 3 月卒業生は全員 (100%) IT エンジニアとして就職した。

・ 受け入れ方針：

エンジニアとして勉強したい学生を歓迎し、「他人に迷惑をかけずに共同できる」学生を受け入れている。コミュニケーション能力がないことを理由に情報工学科を選ぶのはミスマッチであると伝えている。

(2) 質疑応答と意見交換

・ プログラミング独学練習について (長畑委員)：

- 「プログラミング 3 (2 年次前期) の独学練習」について、完全に自由か、テーマが与えられるか質問があった。
- 回答 (柳川学科長)：Windows 上で動作する GUI を備えた業務用のアプリの作成を指定しており、システムの対象業務も学校側で指定する。学生はゴールデンウィークまでに言語を選択する。山口県内就職希望者には Visual Basic、県外就職希望者には C# を推奨しているが、他の言語 (Python、TypeScript など) を選択しても問題ない。ただし、その場合はクラスメイトに助けを求められないというリスクがある。

- ・ ビジネスマナーと独学について（板倉委員、長畑委員）：
 - ・ 独学：エンジニアには卒業後の「学び続ける」習慣が不可欠であり、独学の仕組み作りを高く評価した。
 - ・ ビジネスマナー：一般的なマナーを削った判断を評価する一方、企業からはビジネスコミュニケーション（やりとり）がある程度できるとありがたいという声もあるため、今後検討する材料に加えてほしいとの要望があった。
 - ・ 就活対策：履歴書、メール、ビジネス文書の書き方については、就職活動対策の中で指導している。

3. 2025 年度の取り組みについて（柳川学科長）

(1) 在籍・就職状況（10 月 10 日現在）

- ・ 3 年生：30 名在籍。就職希望者 29 名中 22 名が内定済み。7 名が就職活動中。2026 年 3 月卒の就活は例年より内定時期が早く、4 月以降は就職活動をしていない学生が多い。
- ・ 2 年生：33 名在籍（Dev24 名、Ops9 名）。
- ・ 1 年生：26 名在籍。内 2 名が休学中。1 名が年度末で退学予定。

(2) 国家試験とコンテストの実績

- ・ 国家試験：
 - 高い目標を設定。今年度は、2 年生がセキュリティマネジメント試験に合格できていない。勉強期間が短すぎるものが主な原因と分析されている。
- ・ コンテスト：
 - 若年者ものづくり競技大会などで入賞を逃した。現在は MBSD セキュリティコンテスト、グッドニュース様との産学連携コンテストに 2 年生が取り組んでいる。

(3) 産官学連携・その他

- ・ テクノプロ・デザイン様と連携し、要求分析や要件定義といったソフトウェア開発の上流工程の授業を 1 年生に対して実施する予定で、日程調整中。これは、ものづくり競技大会で設計図やソースコードの完成度に課題があったことを踏まえた対応である。
- ・ 株式会社ビーアライブ様による企業研究事業（計 4 回）を実施予定。
- ・ 山口県警とのサイバーパトロールを夏と冬に 2 回実施予定。
- ・ 卒業制作発表会を外部公開する予定。

(4) 授業内容の見直し

- ・ 基礎学力対策：
 - ラーニングマネジメントシステム「すらら」を導入し、20 分程度の朝学で全学生が国語、数学、英語を学習する。AI が学力を分析し、必要であれば小学生レベルまで戻って必要な内容を学習し直すことができる。
- ・ プログラミング学習プラットフォーム：
 - TechFUL のサービス停止に伴い paiza へとプログラミング学習プラットフォームを変更。paiza ランキングを成績に反映させることでスキル上達を狙う。
- ・ 設計重視の演習：
 - システム開発演習では、設計のやり方や成果物の書き方を特に意識して指導する。2 年生の演習では、他人が書いた設計書を読み解き、それに基づいてモジュールを実装させることで、設計の不備を指摘・改善する練習を行っている。

- ・ ノーコード/生成 AI:

山口大学の太田教授を招聘し、ノーコードツールや生成 AI (NotebookLM、Gamma など) を活用したホームページ・動画作成を実施している。

- ・ 3 年生の生成 AI:

株式会社トクヤマ他数社が行っているデータセンターの実証実験に参加したので高性能 GPU サーバを 8 月まで無料で利用できた。ローカル生成 AI を使った AI アプリ開発を集中的に実施した。

4. 総括的な意見交換

- ・ 業界が求める人材 (米澤委員):

- MBSD 様のような企業は、技術力に加え、「オタク」的などがった技術を持つ学生や考え方を重視している。
- セキュリティコンテストも思考力や問題解決力 (問題意識を持つこと) を重視する。
- 大手企業が専門学校に求めるものは、テクニカルスキルと基礎的な思考力/問題意識であり、ビジネスマナーやコミュニケーションはその次にくる。
- 大学の文系出身者をリスクリングするコストや難しさに触れ (2 割がうつ病、半数近くが使えない)、YIC のように IT が好きで興味がある学生を育成する専門学校の方向性を強く支持した。

- ・ レガシーコードと課外活動 (板倉委員):

- 実際の企業では、ゼロからの開発よりレガシーコードの読解と改修が多いため、先輩のコードを引き継ぐ練習があると役立つ。
- 地域のコミュニティ活動 (ハッカソン等) への参加は、学生の視野を広げ、アイデアを生む上で非常に重要である。
- (柳川学科長応答): レガシーコードの改修は山口県内の就職で主流だが、授業では卒業制作で一部引き継ぎがある程度。学生はゼロから作り直すことが多い。課外活動への参加は推奨しているが、学生の「引きこもり」傾向のため、教職員の引率が必要なほど連れ出すのが困難な現状がある。

- ・ 生成 AI と考える力:

- 柳川学科長より、生成 AI の登場により、学生が何も考えずにコードを生成し、論理的な思考力が低下しているという懸念が示された。論理的に考える訓練を早期に取り入れる必要性を感じている。
- 板倉委員は、YIC の卒業生は AI を適切に使うが、他の学校の卒業生はまず AI を使うため、現場で「AI を使わずにやる」練習から始めている事例を紹介し、課題の共通性を指摘した。

5. 閉会

委員会で出た意見は、学科で具現化できるよう取り組む。次回開催は来年 2 月頃を予定している。